



がん診療相談室・がんサロン『ゆい』たより 初夏号 令和4年5月

ゴールデンウィーク後半は初夏を思わせるような陽気でした。いかがお過ごしだったでしょうか？
皆さまから季節を感じられる手作り作品も届き展示しております。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

「がんゲノム医療について」最新の情報

東北大学病院 腫瘍内科
がん診療相談室長 城田 英和先生

がんゲノム医療とは、主にがんの組織を用いて多数の遺伝子を同時に調べ（遺伝子パネル検査）、がんになった原因やそのがんの特徴（詳しくは増殖経路の違い）を明らかにすることにより、一人一人の体質や病状に合わせて治療などを行う医療です。同じがんでも遺伝子の変化はその患者さん毎に違います。遺伝子パネル検査は個々の特徴を捉えた治療提案のため非常に効果が期待できます。この検査は高度で最新の医療知識を必要とするため宮城県内では本院と、宮城県立がんセンターの2施設でしか行うことができません。遺伝子パネル検査が保険診療となりすでに2年以上経過しましたが本院でもこの検査の導入によっておおよそ2割のがん患者さんは新たな治療が提案され恩恵を受けています。2年前は標準治療に入らない薬剤が多いため臨床試験を利用した薬剤提供となり治療選択肢は多くはありませんでしたが今では遺伝子変化をターゲットにした多くの薬剤が保険適応となりました。またこの検査をベースにした臨床試験や患者申出療養制度を利用した薬剤の数も多くなり、より多くの患者さんに治療効果の高い薬剤を投与できるようになっています。現在はリキッドバイオプシーと言われる採血だけでがんの遺伝子を調べる検査も保険適応となり、がんの組織検体がない患者さんも検査を受けることができるようになりました。検査に出してから1か月程度で検査結果をお伝えすることができます。

がんは遺伝子の変化によっておこる病気です。基本的には後天的な変化で遺伝はしないのですがこの変化を生まれつき持っており家族へ遺伝するような遺伝子変化が判明してしまう可能性もあります（1割程度）。その場合、ご本人だけではなく血縁関係のある家族にも十分なカウンセリングを受けて検査をしていただくことがありますので検査を受ける前に注意が必要です。

遺伝子パネル検査はがん化学療法を行っている患者さんが適応になりますが、がんの種類、治療経過によって検査のタイミングが異なります。東北大学病院は東北地域のがん患者さんにこの検査を行う使命があり、県内外の地域病院からこの検査の紹介を随時受けています。検査を希望する患者さんはまず主治医にご相談ください。



図書の出借をしています

がん診療相談室ではガイドラインをはじめ、多くの書籍を取り揃え、閲覧、貸出（一人2冊まで2週間程度）を行っています。診察の待ち時間に利用していただくこともできます。新しく購入した図書の一部をご案内します。

- 遺伝性乳癌卵巣癌(HBOC)診療ガイドライン
- 卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン
- 腹膜播種診療ガイドライン 肝癌診療ガイドライン
- 患者さんのための肺がんガイドブック
- がん治療におけるアピランスケア
- がん患者におけるせん妄ガイドライン
- 「ライオンのおやつ」 小川糸
- 「いのちの停車場」 南杏子
- 「老いの福袋」 樋口恵子
- 「在宅ひとり死のススメ」 上野千鶴子
- 「急に具合が悪くなる」 宮野真生子・磯野真穂
- 「他人の期待に応えない ありのままに生きるレッスン」 清水研
- 「だいじょうぶだよ、ゾウさん」 ローレンス・プルギニョン



オンライン (Zoom) 茶話会

がんを経験された方、家族の皆さん向けに、さまざまな体験を共有し共に考えることができるオンライン茶話会を始めました。パソコン、タブレット、スマートフォンでWi-Fi環境(YouTubeが見られる程度)があれば自宅から参加できます。メールにて案内状をお送りしますのでご興味のある方はご連絡ください。

開催日程：奇数月 第3水曜日 14時～15時

お問い合わせ先：022-717-7115 (がん診療相談室)

茶話会のファシリテーター（話の流れのまとめ役）の阿部佐智子です。私自身がんを経験し、患者同士の何気ない話が励みになり不安感が薄れたことが印象に残っています。病名も年齢性別関係無く、初めての方とも不思議と共感が生まれ話が弾みます。茶話会ではテーマを決めず話をしていきます。話が苦手な方は参加者の方々の話を聞くことから始めてみませんか。



<皆様から寄せられた作品>



編集：古山、根本、武田